竹島

島の猫いまむかし

Ⓐ古い竹島の写真に痩せこけた猫が写っている。竹島の猫は、90年代頃まではほぼ野良猫で、家のおかずを盗んで逃げる存在だったようだ。そして、2010年代の竹島では、島外からの飼い猫と野良猫のつがいが繁殖し、猫は100匹程に増えていた。島民は、猫のさかり声や臭い、子猫の自然死や交通事故に悩まされた。

2015年、その対策として、島の猫に不妊手術をした。この活動は、犬や猫の殺処分を無くす活動をしている公益財団法人「どうぶつ基金」が協力した。どうぶつ基金は、猫の避妊・去勢手術・ワクチン接種・ノミやダニの駆除・獣医師の派遣・資材運搬などすべて無料で行った。

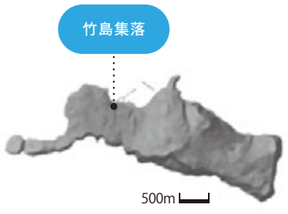
手術の準備として、Ⓑ捕獲器50個とケージ40個が島に届いた。住民総出で5日間、猫を捕獲した。そして見分けのつかない100匹近くの猫を、1匹ずつ写真に撮ってリスト化した。

Ⓒ手術は2日間、体育館で行われた。島民10人が手伝い92匹を手術した。Ⓓこうして去勢・不妊手術を受けた猫は、目印に耳の端をV字型にカットされる。カットされた猫は、耳が桜の花びらにみえるので「さくらねこ」と呼ばれる。

日本では1年に10万匹近くの猫が殺処分されており、その多くは産まれて間もない仔猫だという。どうぶつ基金は、猫に不妊手術を施すことが殺処分を無くす有効な手段だと考えている。Ⓔこの取り組みは黒島でも、2022年～翌23年に行われた。そして2024年の年末に竹島で再び行われる。

思い出話

「猫が増えた頃、魚をさばくと20匹くらい猫が来て内臓などを食べたので、そこは便利でした。」

竹島地区　40代　男性

6